

洲本市域学連携事業10周年記念シンポジウム -冒険し続ける地域と人の作り方-

## 域学連携10年の批評と、今後10年を見据えた提言

大学や企業と共に歩む地域団体の活動に関する検討

# 域学連携事業は 地域に何をもたらしたか



洲本市企画課 地域おこし協力隊 小林



- 1.ワーキング検討プロセスのご紹介
- 2.域学連携事業の地域評価
- 3.域学連携事業のライフサイクルからみた受け入れ時の重要検討事項
- 4.今後の域学連携事業への提言

# 1.ワーキング検討プロセスのご紹介

域学連携事業に参画している地域（町内会・地域団体）や地元企業、自治体関係者とともに3日間のワーキングを実施。

## WG1日目

## WG2日目

## WG3日目



ディスカッションワーク前の事前説明

関わった域学連携事業の取り組み  
課題感の事前アンケートの実施



域学連携事業の地域評価  
ディスカッションワークの実施

ディスカッションワーク後の  
意識調査(アンケート)の実施



ディスカッションワークのとりまとめ  
結果の共有

ワーキング検討結果方針の確認



# 1.ワーキング検討プロセスのご紹介

WG2日目のディスカッションワークでは、以下の2点の検討軸で進んでいきました。

**域学連携事業によって  
得られた地域づくりの**成果**  
問題や課題・**反省点**は何か**

**域学連携事業で円滑な  
活動を支えるために必要な  
地域側の受け入れ要件は何か**



# 1.ワーキング検討プロセスのご紹介

WG2日目のディスカッションワークでは、以下の2点の検討軸で進んでいきました。



＼YouTubeが開きます／  
**ワークの様子を見る**

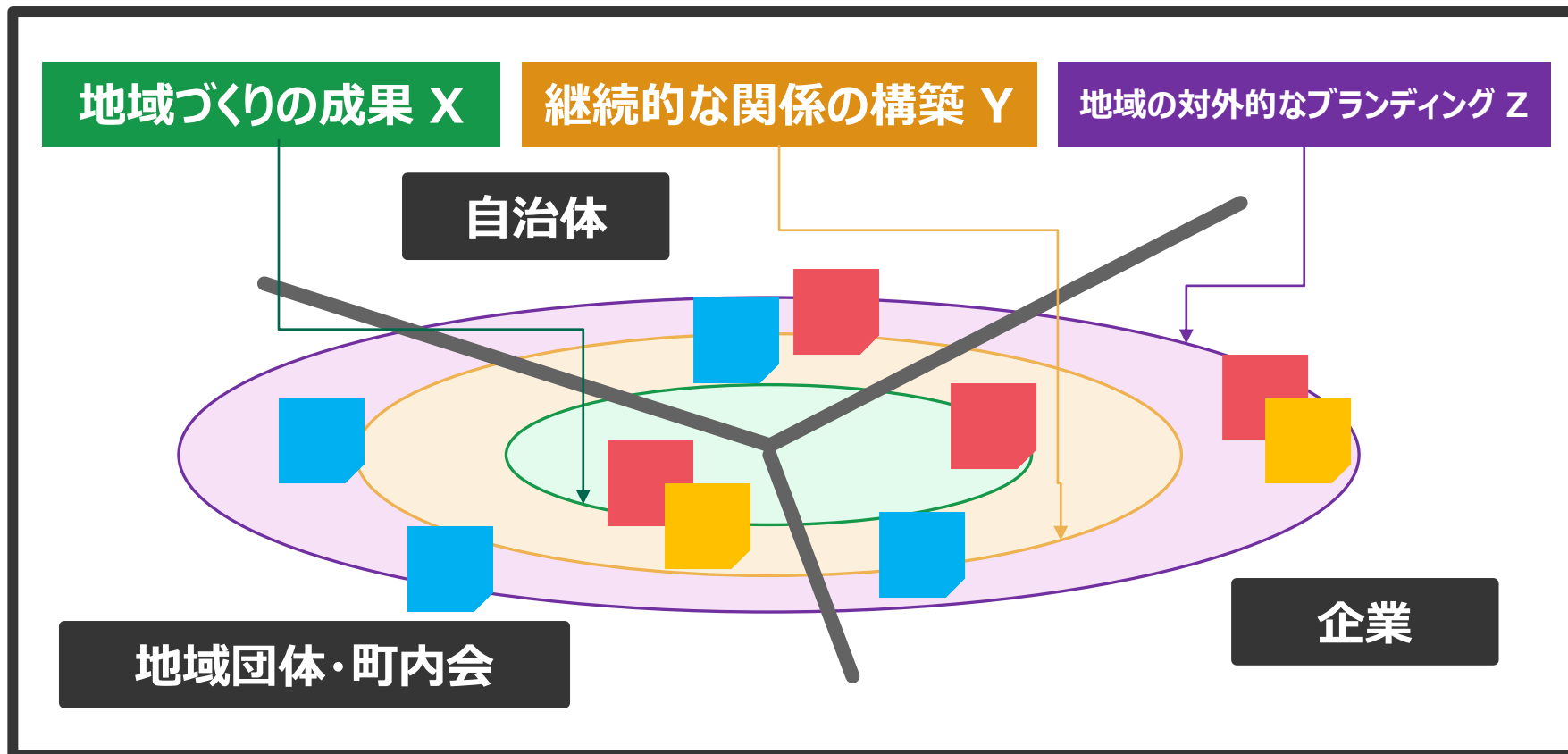
＼押すとPDFが開きます／  
**PDFを拡大してみる**



# 1.ワーキング検討プロセスのご紹介

地域づくりの成果や問題・課題の検討においては、立場別に付箋に評価を書き出し、共感点をシールで表現して集約しています。

## 域学連携事業によって得られた地域づくりの成果 問題や課題・反省点は何か



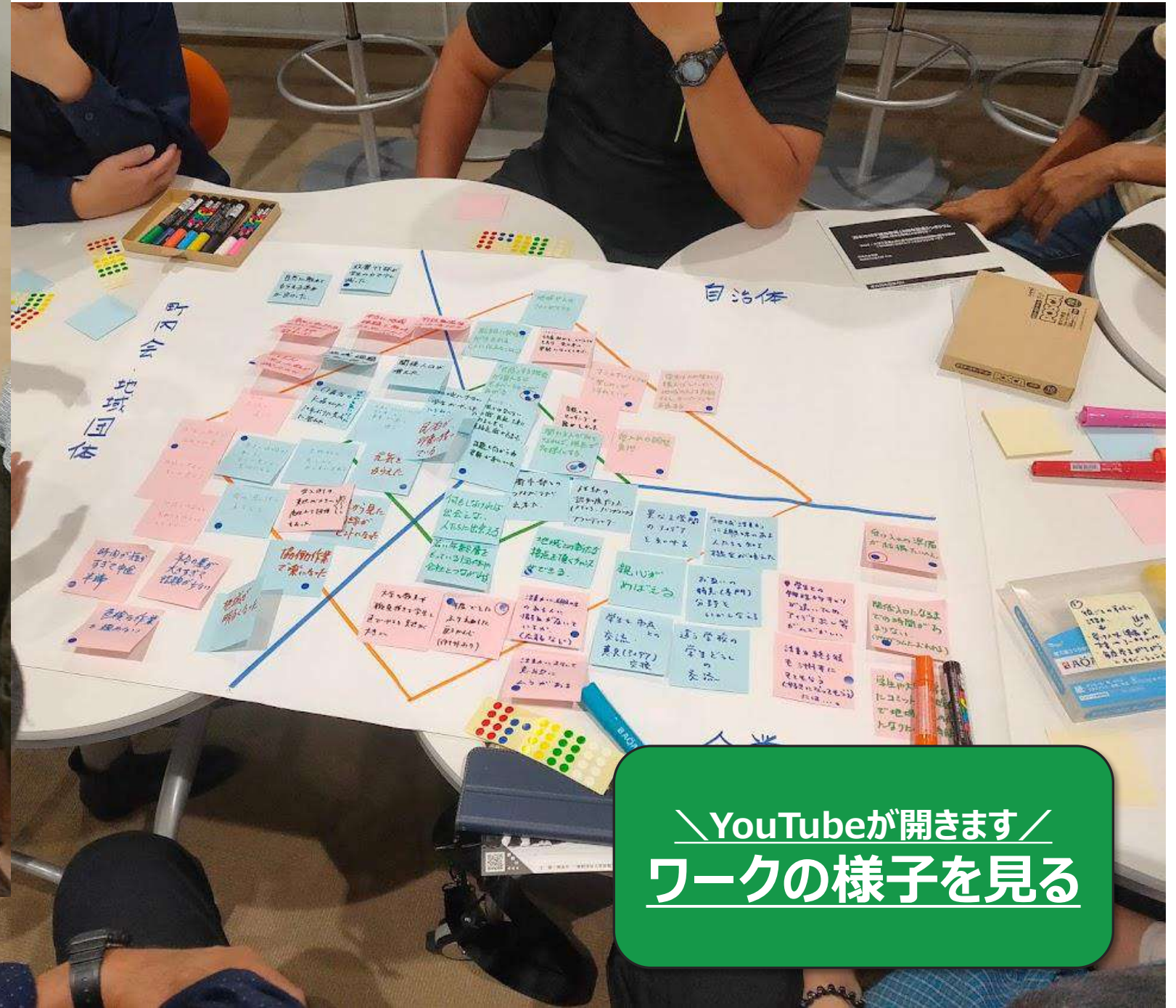
2つのグループに分かれてワーキングを開始

- 0:00-0:05      ワーク説明
- 0:05-0:15      ポジティブ評価 ■
- 0:15-0:25      ネガティブ評価 ■
- 0:25-0:30      班内評価 & 取りまとめ ● ● 共感すること
- 0:30-0:36      発表 (3分×2班)
- 0:36-0:40      班外評価 ● ○ 共感すること
- 0:45-0:55      改善検討 ■

- 域学連携事業の成果・ポジティブな事柄を付箋に書き出してください
- 域学連携事業の問題・ネガティブな反省点を書きだしてください
- 今後域学連携にとって大切だと思うこと、改善に向けてやるべきことを書きだしてください



# 1.ワーキング検討プロセスのご紹介



\\YouTubeが開きます\\  
ワークの様子を見る



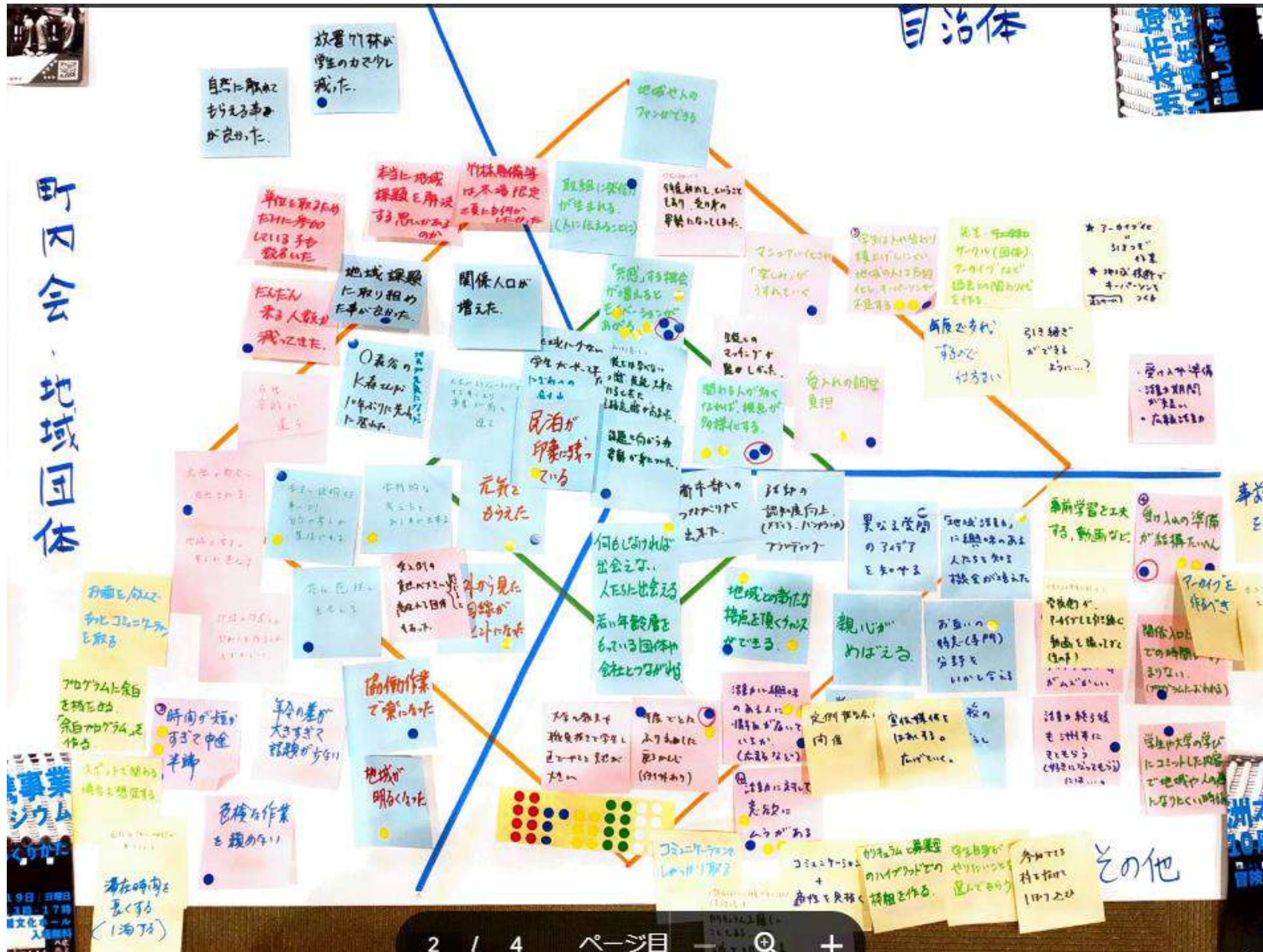
# 1.ワーキング検討プロセスのご紹介



押すとPDFが開きます  
PDFを拡大してみる



# 1.ワーキング検討プロセスのご紹介



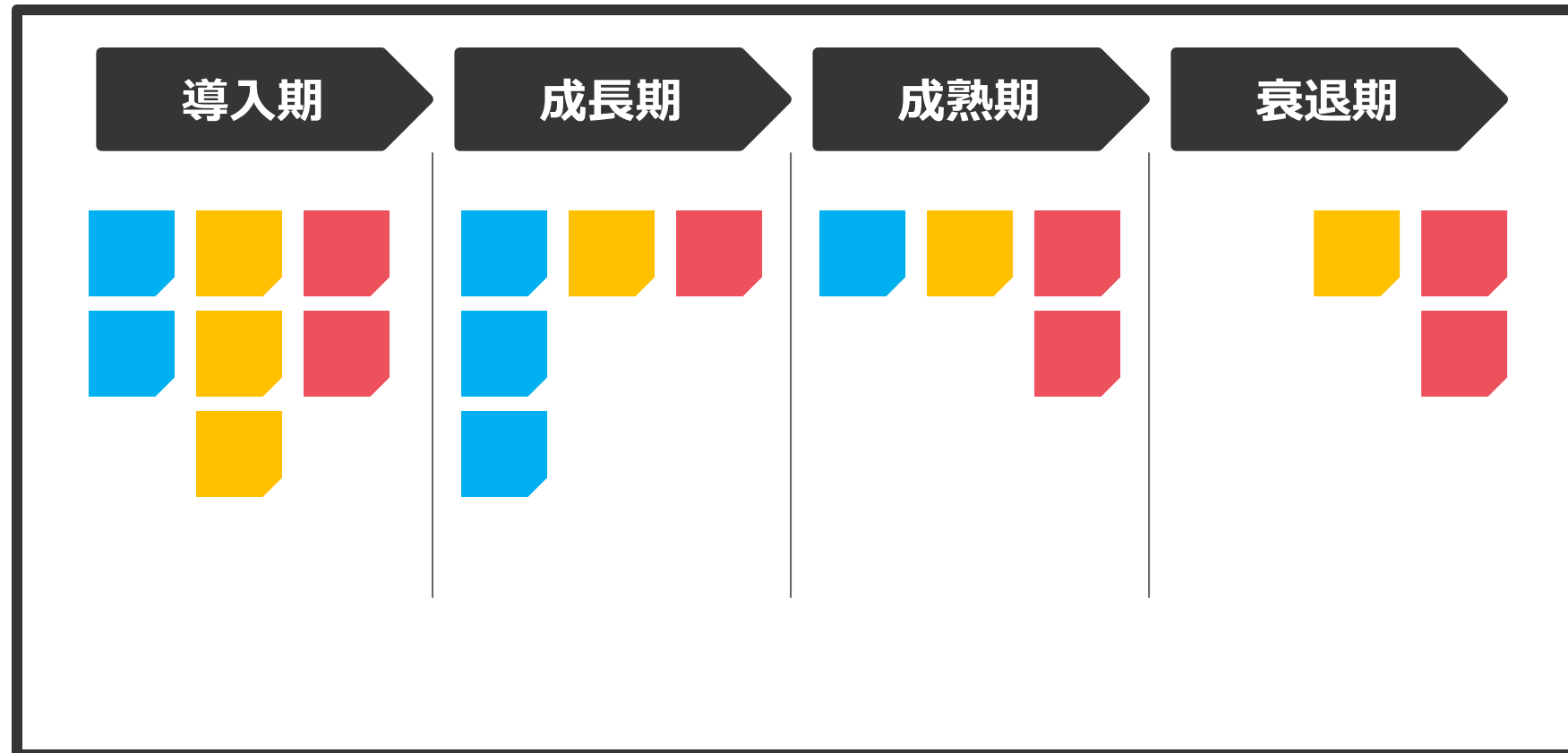
押すとPDFが開きます  
PDFを拡大してみる









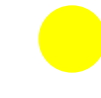

# 1.ワーキング検討プロセスのご紹介




地域側の受け入れ要件の検討では、フェーズごとに付箋に評価/要件を書き出し、共感点をシールで表現して集約しています。

## 域学連携事業で円滑な活動を支えるために必要な地域側の受け入れ要件は何か



2つのグループに分かれてワーキングを開始

- 0:00-0:05 ワーク説明
- 0:05-0:15 受け入れ要件の検討 
- 0:15-0:25 不足評価 
- 0:25-0:30 班内評価&取りまとめ   **共感すること**
- 0:30-0:36 発表 (3分×2班)   **共感すること**
- 0:36-0:40 班外評価 
- 0:45-0:55 改善検討 

-  域学連携事業を受け入れにあたり必要だと思われること
-  域学連携事業を受け入れにあたり必要であるが実現できていないこと (やれたらいいなと考えていること・問題点)
-  実現できていないことの要因分析 (実現するためにはどうすればいいかの策)



# 1.ワーキング検討プロセスのご紹介



\\YouTubeが開きます\\  
ワークの様子を見る



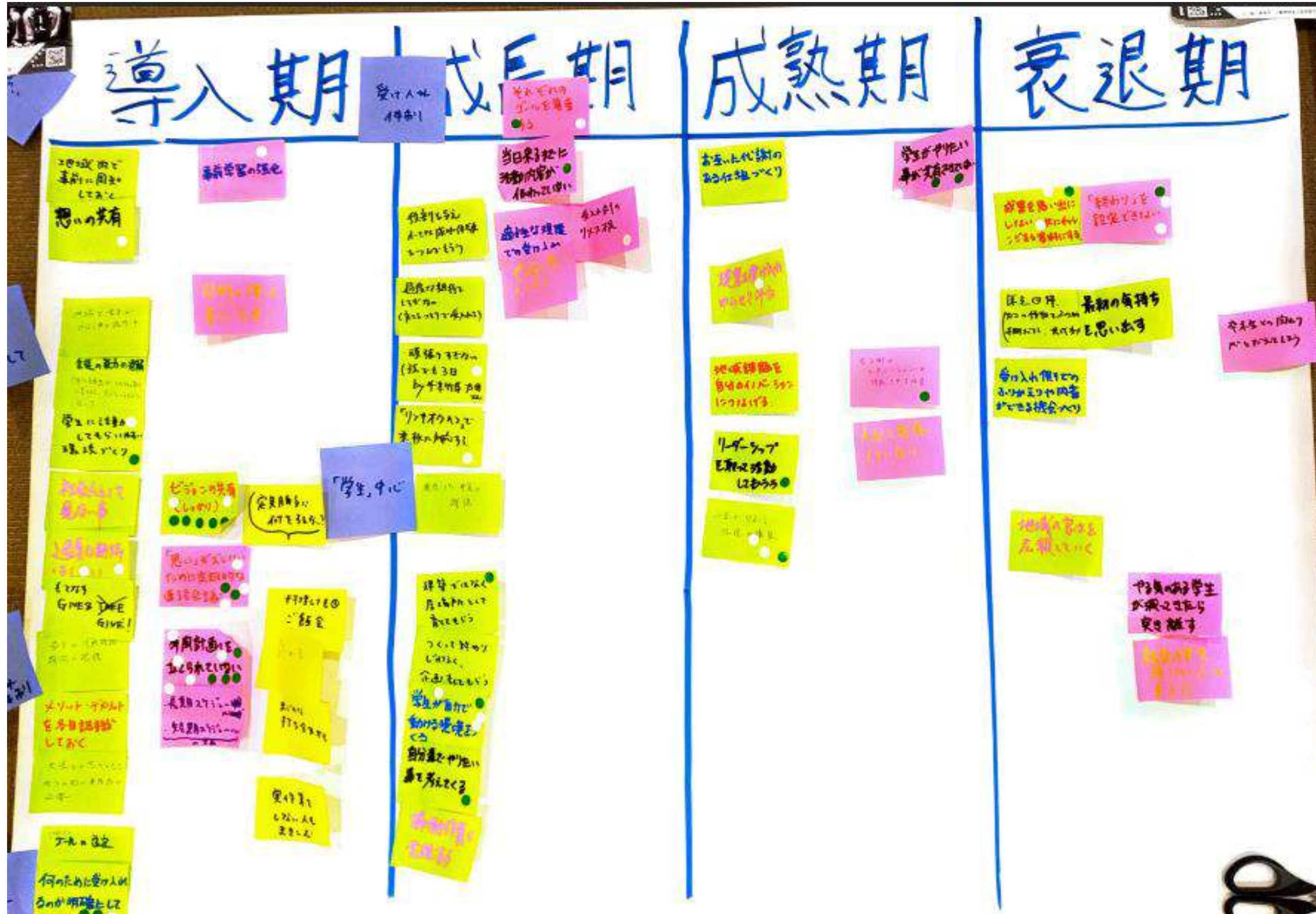
# 1.ワーキング検討プロセスのご紹介



＼押すとPDFが開きます／  
PDFを拡大してみる



# 1.ワーキング検討プロセスのご紹介

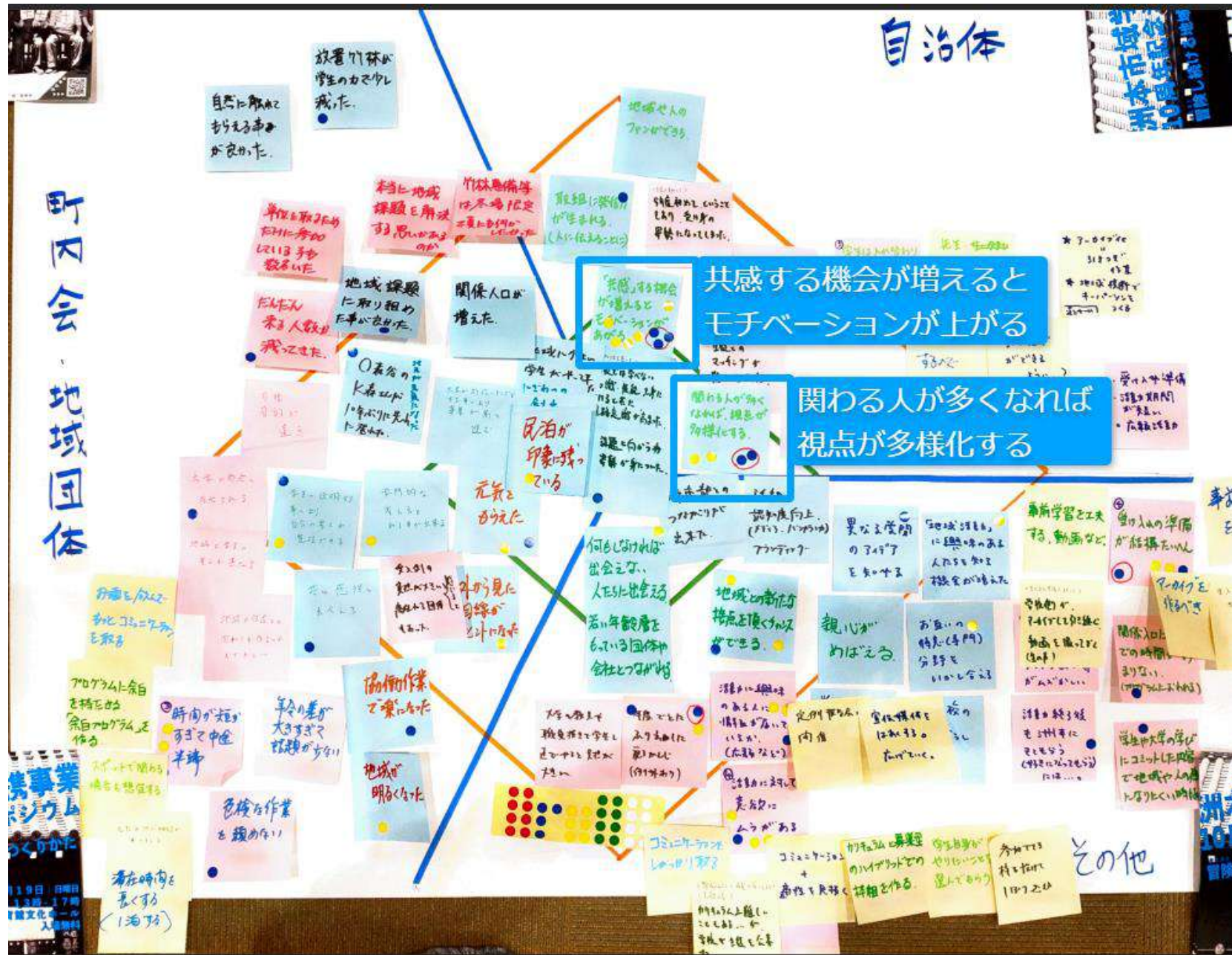


＼押すとPDFが開きます／  
PDFを拡大してみる



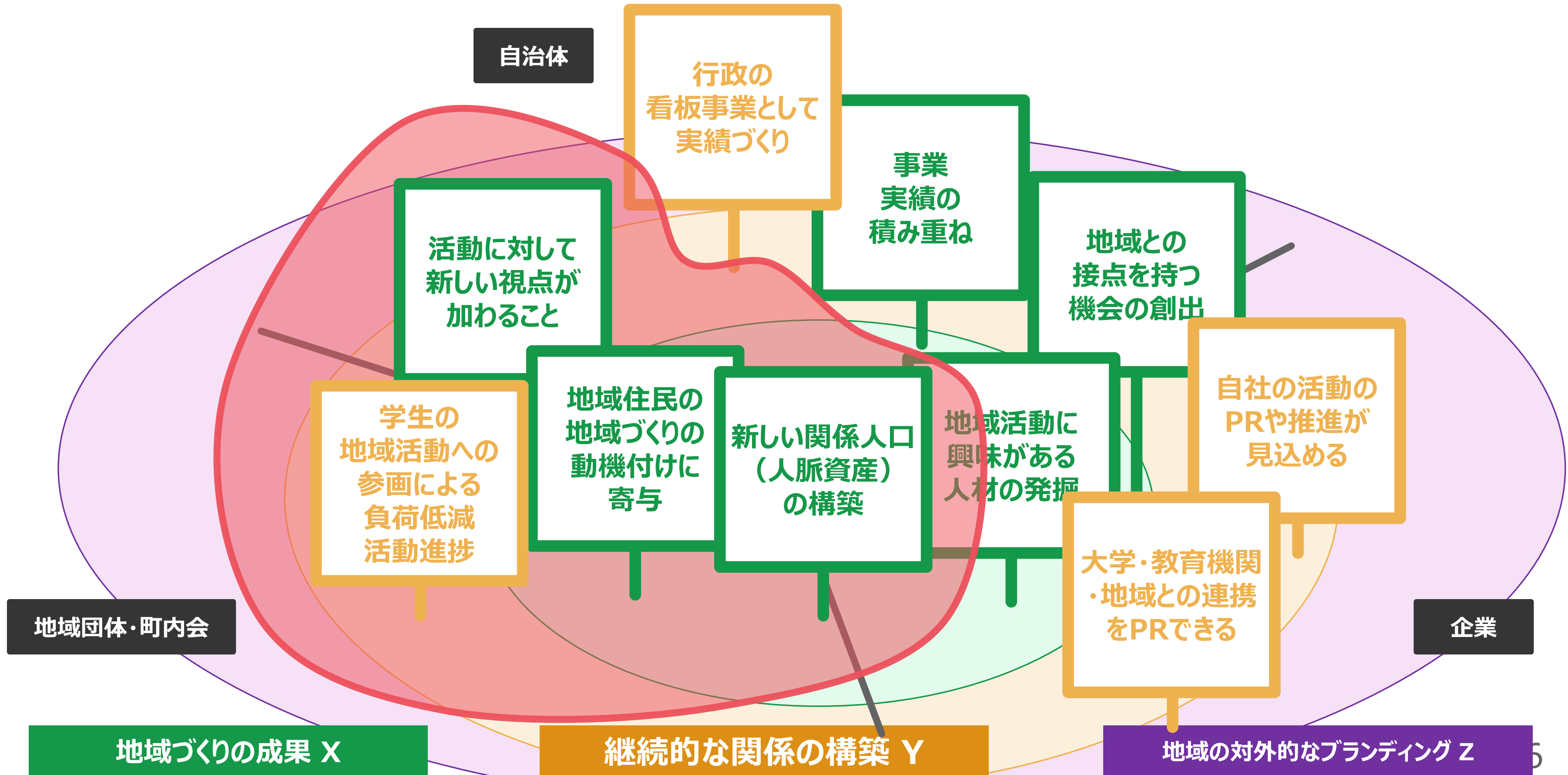
# 2. 域学連携事業の地域評価：ワーキング結果

地域側が感じる域学連携の成果、ポジティブな側面は以下のような内容に共感が集まりました。





## 2. 域学連携事業の地域評価：ワーキング結果





## 2. 域学連携事業の地域評価：得られたものは何か

情緒的価値  
= 前を向く燃料

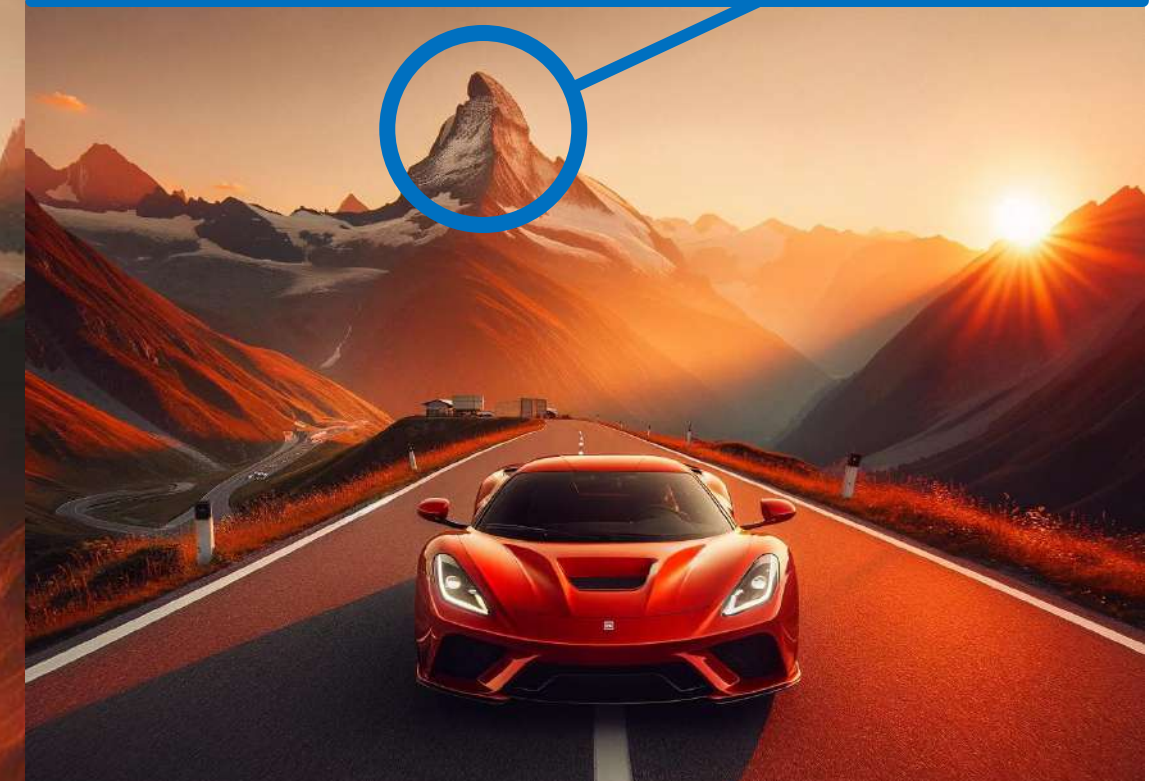


学生からの刺激

地域への誇り

変化・挑戦の姿勢

機能的価値  
= 振り返って見える景色  
(達成したゴール/構築できたモノコト)



活動の進捗

PR活動による認知

商品開発

地域のありたい姿

域学連携事業  
= 車(移動手段)



## 2. 域学連携事業の地域評価：得られたものは何か

前提：域学連携事業の成果 = 測りにくいものではある

### 情緒的価値

域学連携事業に取り組んだ人  
(地域住民、企業、自治体の関係者) が感じる  
モチベーション、期待感、使命感の創造

学生からの刺激

地域への誇り

変化・挑戦の姿勢

### 機能的価値

域学連携事業に生み出された  
具体的な経済効果や財・サービスの創造  
資本（人脈・設備等）の構築

活動の進捗

PR活動による認知

商品開発



## 2. 域学連携事業の地域評価：得られたものの具体例

情緒的価値  
= 前を向く燃料



淡路ロングトレイル



事業  
手段)

塔下新池ため池ソーラー発電所

地域のありたい姿

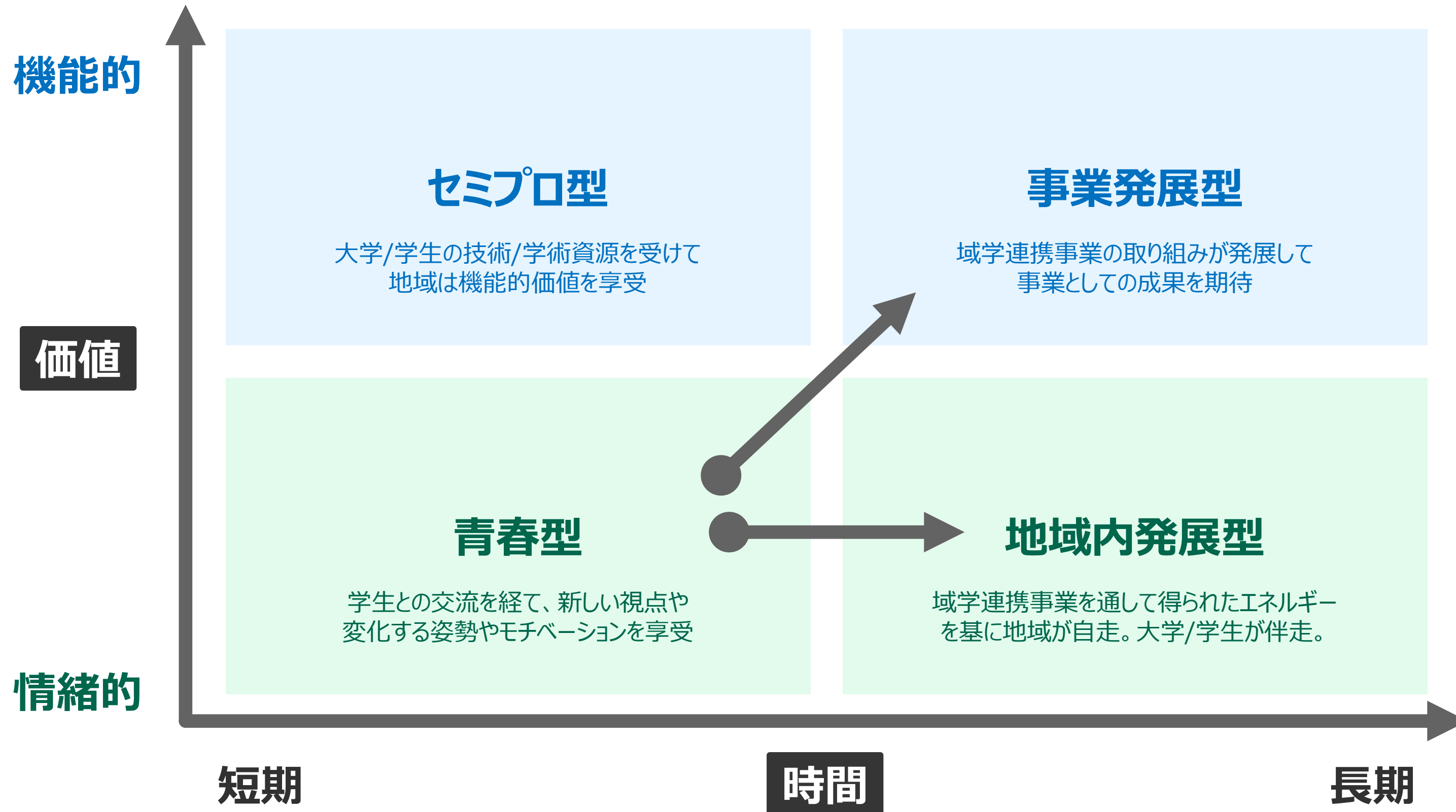


鮎原米・米ワッフルの販売実績





## 2. 域学連携事業の地域評価：時間軸と地域が得る価値の関係性





# 2. 域学連携事業の地域評価：浮き彫りになった課題（ネガティブ評価）

地域側が感じる域学連携の課題、ネガティブな評価には以下のような内容に共感が集まりました。





## 2. 域学連携事業の地域評価：浮き彫りになった課題（ネガティブ評価）

### 継続的な活動を支える仕組みの不足

#### 学生への入れ替わり

域学連携で関わる「学生」が毎年入れ替わること

活動背景の引継ぎ

地域の理解不足

活動の熱量のムラ

#### 地域人材への入れ替わり

自治体/企業の担当者の異動  
町内会/地域人材の担い手や引継ぎ人物の不在

キーパーソン不足

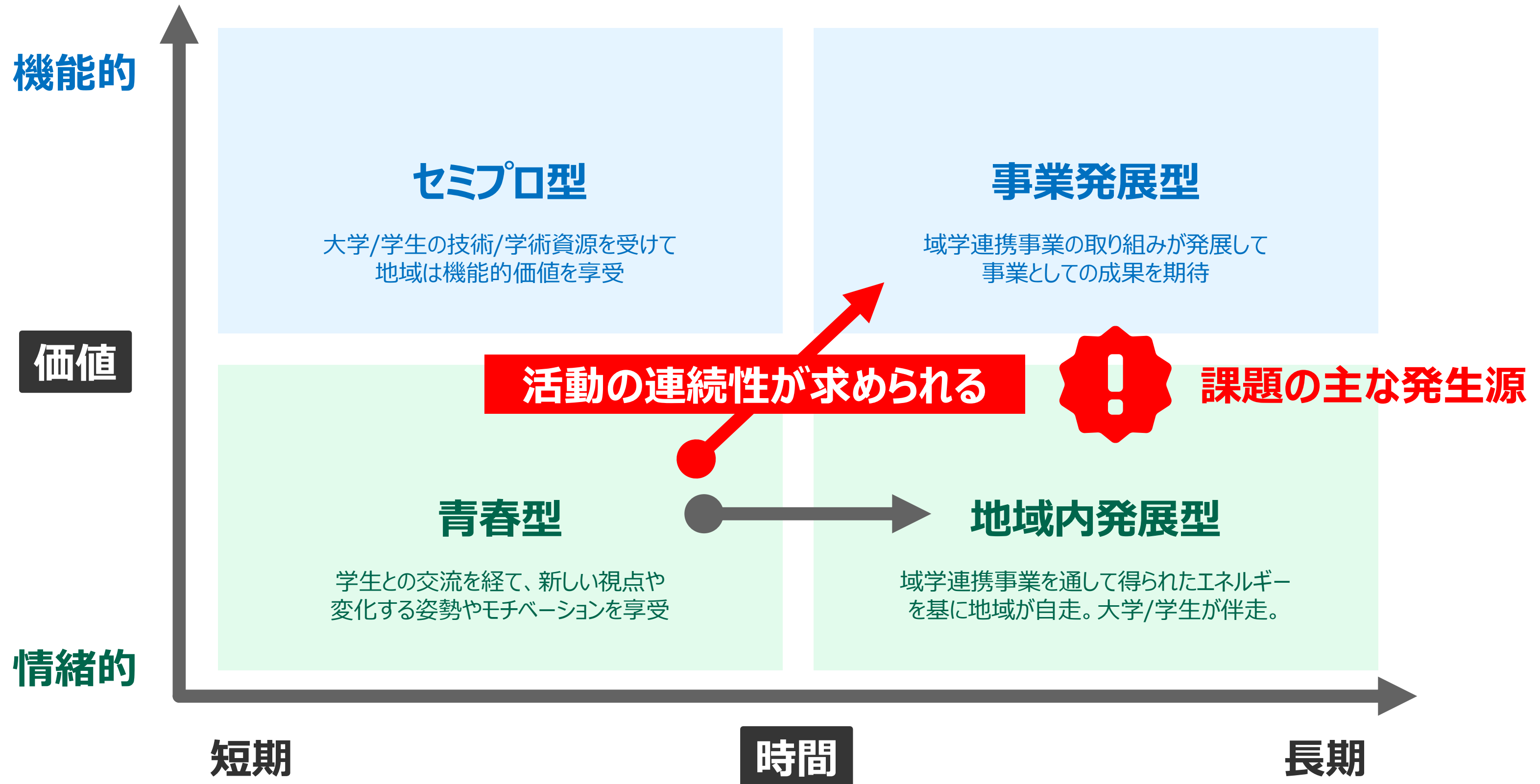
活動へのストレス

ノウハウの消失

仕組み不足の状況でも、洲本市の域学連携事業が継続している背景には  
強力な先導者の存在、寛容な地域住民の存在、臨機応変で柔軟な対応を受け入れる関係性のある雰囲気



## 2. 域学連携事業の地域評価：浮き彫りになった課題（ネガティブ評価）





## 2. 域学連携事業の地域評価：ワーキング後意識調査の結果

○ ディスカッションワーク後のアンケートの要約内容です。詳細はパネル展示の掲載よりご覧ください。

### ワーク1（域学連携の評価）に関する感想や気づき

- ・どの地域の活動も課題になっていることは共通していると感じた。
- ・時間の経過とともに、域学の取り組みアプローチが変化している。
- ・ゴールの設定や役割の共有が重要。
- ・域学連携を10年継続した地域と最近関わっている地域や企業との見識の差が感じられた。
- ・引継ぎに関する課題は学生側のみならず、町内会や自治体も年度ごとに人の入替があることから、地域側にも共通する課題と認識した
- ・学生の入れ替わりによる地域側に与える負担やストレスの大きさを実感した

### ワーク1（域学連携の評価）への自身の立場からの考えや改善策

- ・明確なゴール設定や役割の共有が域学連携に必要なと感じた。
- ・プロジェクトの活動履歴や地域情報などのアーカイブ作りが必要
- ・中心人物の不在は大きな課題として認識されている。  
第三者機関との連携が改善策になるのではとの提案。
- ・地域を横断した情報共有、地域や大学、行政、伴走者の共通認識や関係性作りの場が必要。  
（域学連携の受け入れガイドブックなども）
- ・アーカイブ構築・プロジェクト設計の伴走・支援の必要性が感じられた。

人の入れ替わりから派生する構造的な問題点が浮き彫りに

属人化を防ぐ“継ぐ仕組み”  
とそれを動かすを体制づくりの必要性



# 3. 域学連携事業のライフサイクルからみた受け入れ時の重要検討事項

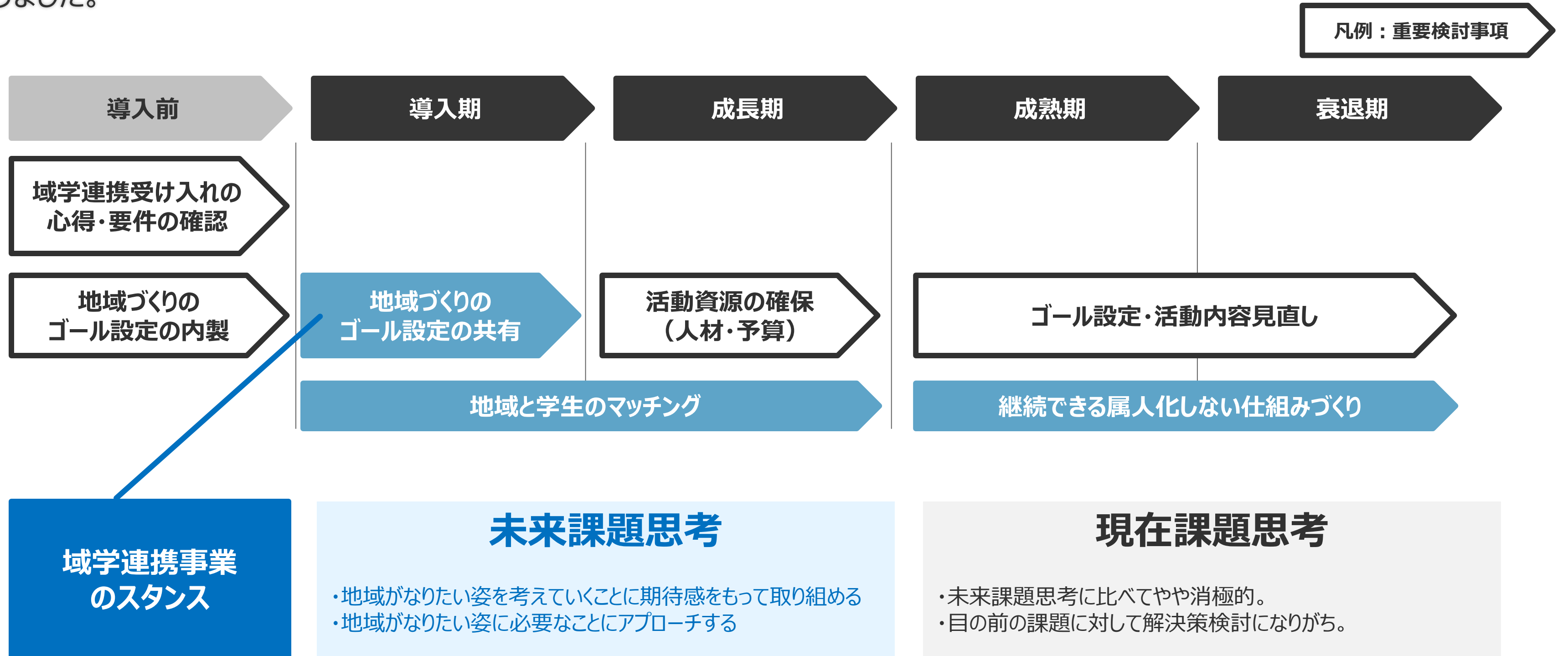
域学連携事業のライフサイクルの視点から、地域側が考える重要検討事項には以下のような内容に共感が集まりました。





# 3. 域学連携事業のライフサイクルからみた受け入れ時の重要検討事項

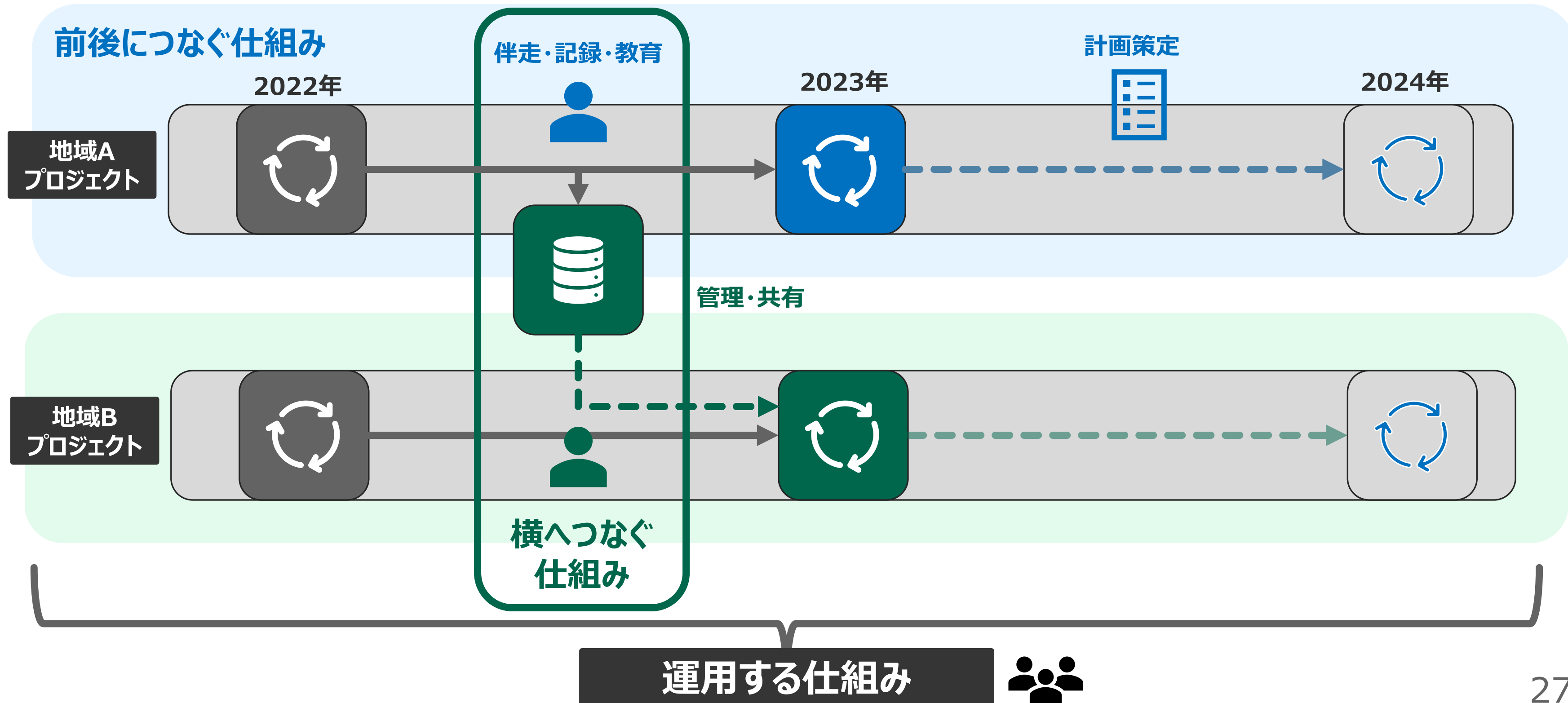
域学連携事業のライフサイクルを意識したワークでは、導入期には地域と大学など、関係者のマッチングが重要との傾向が明らかになりました。





# 4. 今後の域学連携事業への提言

ワーキングの中で浮き彫りになった課題や、域学連携事業で地域に求められる要件・整えるべき工夫の検討結果を基に、今後の事業推進への地域視点の提言を下記のイメージで示します。





# 4. 今後の域学連携事業への提言

浮き彫りになった課題から求められる施策の具体的なメニュー案は以下の通り。

3つの施策案	メニュー案	詳細
前後をつなぐ仕組み	・活動の引継ぎ資料の作成	・活動の内容や関係者、活動経緯や成果物が分かるようにアーカイブとなる資料を取りまとめる（フォーマット提供や資料作成支援）
	・学生への地域活動前教育（コミュニケーションの場）	・域学連携に関わる学生に対して、アーカイブ資料を基にした事前教育の支援
	・活動の伴走支援	・マッチングやゴール設計、活動中の伴走支援
左右をつなぐ仕組み	・他活動のノウハウの共有	・他の活動のアーカイブなどを集約・共有できるプラットフォーム的な場所
	・域学連携受入前の地域間教育	・新規に域学連携を取り掛かる地域や団体（企業）向けに心得的なものを共有する教育機会の提供（フォーラムやコミュニティのような場所）
運用する仕組み	・各プロジェクトのアーカイブ資料の管理・運用	・各プロジェクトの活動記録や暗黙知の言語化支援を行い、管理運用する役割
	・伴走支援者の割り当て	・伴走支援をする者の割り当てや支援者のサポート
	・地域おこし協力隊の活用 ・地域活性化企業人	・地域おこし協力隊が伴走者として機能 ・地域おこし協力隊OBOGになって伴走者へ





洲本市の姉妹都市 13 どんとこじ

洲本市 域学連携シロ DAY2 ディスカッションワーク

00 事前アンケートの回答概観  
01-05 ディスカッション① 域学連携  
00- 休憩  
01- ディスカッション②  
00-00- 説明  
00-05- 説明  
00-15- 説明  
00-25- 説明  
00-30- 説明

洲本市域学連携事業  
10周年記念シンポジウム  
冒険し続ける地域と人のつくりかた

洲本市域学連携事業  
10周年記念シンポジウム  
冒険し続ける地域と人のつくりかた

10th.

洲本市域学連携事業  
10周年記念シンポジウム  
冒険し続ける地域と人のつくりかた

洲本市域学連携事業  
10周年記念シンポジウム  
冒険し続ける地域と人のつくりかた

洲本市域学連携事業  
10周年記念シンポジウム  
冒険し続ける地域と人のつくりかた

洲本市域学連携事業  
10周年記念シンポジウム  
冒険し続ける地域と人のつくりかた

洲本市域学連携事業  
10周年記念シンポジウム  
冒険し続ける地域と人のつくりかた

洲本市域学連携事業  
10周年記念シンポジウム  
冒険し続ける地域と人のつくりかた

洲本市域学連携事業  
10周年記念シンポジウム  
冒険し続ける地域と人のつくりかた

洲本市域学連携事業  
10周年記念シンポジウム  
冒険し続ける地域と人のつくりかた

洲本市域学連携事業  
10周年記念シンポジウム  
冒険し続ける地域と人のつくりかた

洲本市域学連携事業  
10周年記念シンポジウム  
冒険し続ける地域と人のつくりかた